資料１

令和元年度第１回栃木県総合教育会議での主な意見まとめ

令和元（2019）年 12 月 26 日
文書学事課

１　学校と地域が連携・協働することのよさについて

(1)　地域学を取り入れる高校が増えており、生徒には地域の一員としての意識の醸成、地域にとっては、生徒の姿を見て自分たちも行動しなければという気持ちや地元高校への愛着などにつながる。

(2)　ＰＴＡ活動で学校に足を運び、子どもたちの様子など様々なことを知ることで、学校への愛着を持つことができた。

(3)　地域の行事に子どもたちが参加することは地域の活性化に相乗効果をもたらす。保護者の参加にもつながり、地域での大人同士の関わりも出てくることで地域にもプラスになる。

(4)　子どもの気づきから大人が気づくということが多くある。地域は課題解決型学習ができる場であり、大人も子どもも地域にかかわりながら学びを深くしていくことができる。

(5)　学生が地域（家庭）や企業を訪問して学ぶことは、双方にとって良い学びや気づきにつながる。

(6)　学校と地域との連携を進める場合は、その業務が教員の負担にならないよう学校と地域との橋渡しを地域の人材に担ってもらうことが重要である。

２　より多くの人が学校に関わり、よりよい地域づくりへと活動の幅を広げていくために必要な取組について

(1)　学校側からの情報発信と各地域でそれぞれの地域にあった活動ができるコーディネーターが必要である。

(2)　活動の拠点となる組織と、学校、地域、保護者のしっかりとした役割分担が必要である。

(3)　高校と地元企業等との接点となる場の創出を図るとともに、生徒はインターンシップやボランティアなどで地域に積極的に出ていってもらいたい。

(4)　学校がどのような学びを大切にしているかについて、地域の人々や保護者に提供することで、相互の連携が円滑に進む。

(5)　様々な人が集まって議論し、お互いを理解し合える場をつくることが非常に重要である。